

HSP 139 NetBackup 5330 アプリケーション計算ノードディ スクドライブの交換

目次

.....	3
NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードディスクドライブの交換	3
影響のあるモデル	3
オンサイトのポリシーと手順	4
電気の安全性	4
ハードウェア部品の交換手順	5

NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードディスクドライブの交換

ドキュメント番号: 139

バージョン: 3.0 (15/03/10)

影響のあるモデル

NetBackup 5330 アプライアンス

NetBackup 5330 アプライアンスは、使用可能なバックアップ容量を合計 456 TB まで拡張するハードウェアとソフトウェアのストレージシステムです。1 台の 2U NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードと、接続された 1 台の 4U NetBackup プライマリストレージシェルフで構成されます。追加のストレージが必要な場合は、オプションで最大 2 台の 4U 拡張ストレージシェルフを追加できます。

NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードは、前面パネルからアクセスできる 8 台の 3 TB SAS ディスクを搭載しています。計算ノードのメインボードに埋め込まれた RAID コントローラを使って 8 台のディスクのうち 6 台を 2 つの RAID1 ミラーボリュームとして構成し、2 台をホットスペアディスクとします。これらのボリュームには、ボリューム 0 とボリューム 1 というラベルが付きます。いずれかの RAID ボリュームのディスクでハードウェアのエラーが起きると、アプライアンスは RAID の再構築操作を自動的に開始します。再構築中、アプライアンスはランダムにホットスペアディスクを選択して、RAID ボリュームを再構築します。

スロット 6 とスロット 7 のディスクは今後の使用のために予約済みです。スロット 8 から 11 まででは空になります。

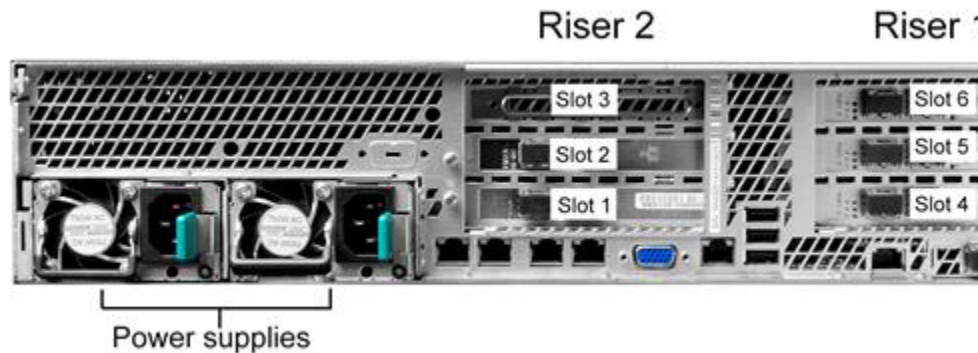
前面パネルの右側に小さなコントロールパネルがあります。ここには、システム LED と、電源ボタンを含む操作ボタンがあります。

図 1 NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードの前面図



背面パネルには、6つの PCIe スロットがあります。これらのスロットには 10 Gb Ethernet NIC または 8 Gb Fibre Channel HBA を設置できます。背面パネルの左側には電源ソケットがあります。

図 2 NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードの背面図



オンサイトのポリシーと手順

電気の安全性

人体から出る静電気で基板上の静電気に弱い部品が損傷する可能性があります。装置の設置やメンテナンスを行うときは、怪我やデバイスの損傷を防ぐために、適切な静電気安全注意事項を遵守してください。

デバイスの静電気に弱い部分を取り扱う際には、静電放電 (ESD) 防護手段を講じる必要があります。この防護手段には、人身傷害やデバイスの損傷を避けるために身に着ける ESD を防止する手袋、リストストラップ、衣服などが含まれます。

デバイスを損傷から守るには、操作中に次の点に注意してください。

- デバイスを素手で触らないでください。人体からの静電放電によって基板上の静電気に弱い部品が損傷する可能性があります。
- サーバーや内部コンポーネントを取り扱う際には、ESD を防止するリストストラップや手袋、スーツを身に付けてください。

ハードウェア部品の交換手順

NetBackup 5330 アプライアンス計算ノード 3-TB ハードディスクドライブの交換

このセクションでは、NetBackup 5330 アプライアンス計算ノード内の 3-TB ディスクドライブを交換する方法について説明します。計算ノードのディスクドライブはスロット 0 から 7 に搭載されます。残りのスロットにはブランクキャリアが取り付けられます。



この修理は、ラックに設置されたアプライアンスで実施できます。

注意: ハードディスクドライブの交換は 3 分以内に完了させる必要があります。3 分を超えてディスクドライブスロットを開いたままにしておくと、アプライアンスのオーバーヒートや他のコンポーネントの故障の原因になります。

メモ: アプライアンスにストレージシェルフが付いている場合には、アプライアンスで作業する間、シェルフの電源を切る必要はありません。

必要条件

- NetBackup 5330 アプライアンス計算ノードの交換用 3-TB ハードディスクドライブ
- ESD リストストラップ

不良ディスクドライブのあるアプライアンスを特定するには

- 1 不良コンポーネントのあるユニットのところまで行きます。
- 2 前面パネルで、橙色のドライブステータス LED をチェックします。ドライブステータス LED は、ディスクドライブの面板上にある 2 つの LED の下の方です。



この LED が橙色に点滅している場合、ディスクドライブは再構築プロセス中で、邪魔してはならないことを意味します。ドライブステータス LED が消灯している場合、ドライブは適切に作動しています。

ディスクドライブを取り外すには

- 1 ESD 対応のリストストラップを着用するか、他の ESD 防護手段を取ります。

メモ: 人体から出る静電気で基板上の静電気に弱い部品が損傷する可能性があります。装置の設置やメンテナンスを行うときは、怪我やデバイスの損傷を防ぐために、適切な静電気安全注意事項を遵守してください。

静電気安全注意事項については、本ドキュメントの「電気の安全性」を参照してください。

- 2 フロントベゼルを取り外します。両側のベゼルをつかんで、アプライアンスから取り外します。
- 3 交換するドライブを特定します。ドライブはスロット 0 から 7 のいずれかにあります。ドライブステータス LED が橙色になっている必要があります。ドライブスロットは次の図のようになっています。

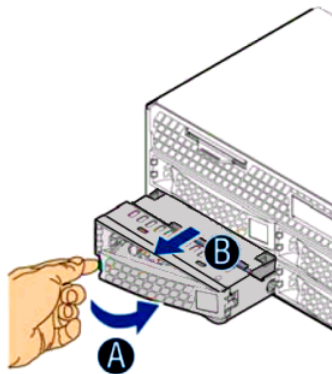
警告: ドライブステータス LED が橙色になっている必要があります。橙色は、ディスクドライブにエラーが発生していることを示します。ドライブステータス LED が橙色でない場合、作業に入る前にベリタスのサポートに連絡してください。



- 4 ドライブの左側の緑ボタンを押して、ディスクドライブレバーをリリースします。



- 5 レバーを完全に開きます。ただし、ドライブをスライドさせてスロットから外さないようにしてください。ドライブモーターの回転を止めます。これには約 30 秒かかります。
- 6 ドライブをスライドさせてスロットから外します。



注意: ハードディスクドライブの交換は 3 分以内に完了させる必要があります。3 分を超えてディスクドライブスロットを開いたままにしておくと、アプライアンスのオーバーヒートや他のコンポーネントの故障の原因になります。

- 7 ドライブを ESD 保護バッグに入れます。

ディスクドライブを取り付けるには

- 1 ESD 対応のリストストラップを着用するか、他の ESD 防護手段を取ります。

メモ: 人体から出る静電気で基板上の静電気に弱い部品が損傷する可能性があります。装置の設置やメンテナンスを行うときは、怪我やデバイスの損傷を防ぐために、適切な静電気安全注意事項を遵守してください。

静電気安全注意事項については、本ドキュメントの「電気の安全性」を参照してください。

- 2 ESD 保護ラッパーから交換用ディスクドライブを取り出します。
- 3 緑ボタンを押して、レバーをリリースします。
- 4 レバーを完全に開きます。
- 5 ディスクドライブをスロットにしっかりとスライドさせます。
- 6 レバーを閉めます。ディスクドライブのカバーが前面パネルと水平になるようにします。適切に接続できた場合、ドライブアクティビティ LED は緑になります。

少し待ったら、ドライブステータス LED が橙色で点滅を始め、再構築が進行中であることを示します。